

よりよい学級経営のためにグループアプローチを活用する

いじめ未然防止につながる

主体的・対話的な学級づくりハンドブック

県教育センター
イメージキャラクター
「せんたん」



居心地のよい学級で
児童生徒が安心して
学校生活を送るために



児童生徒が互いに
認め合い支え合う
学級づくりを目指して



平成25年9月28日に「いじめ防止対策推進法」が施行されました。

山形県教育センターでは「いじめ」にかかわる研究を通して、「いじめ防止対策支援プログラム」を開発し、その「未然防止実践プログラム」をハンドブックとしてまとめました。

本ハンドブックは、いじめ未然防止の観点から計画的・系統的に配置した、3つのグループアプローチにより構成されています。

1つ目は、児童生徒の緊張を緩和し居心地をよくするグループアプローチです

2つ目は、児童生徒同士が認め合い、支え合う関係をつくるグループアプローチです

3つ目は、児童生徒一人一人の自己肯定感を育むグループアプローチです

「主体的・対話的な学級づくりハンドブック」を通して、いじめ未然防止の手法と児童生徒へのよりよい支援のあり方を実践的に学びます。

山形県教育センター

互いに認め合い、安心できる 居心地のよい学校や学級を目指すために

はじめに

本ハンドブックは、当教育センターが開発した「いじめ防止対策支援プログラム」の中の「未然防止実践プログラム」をまとめたものです。

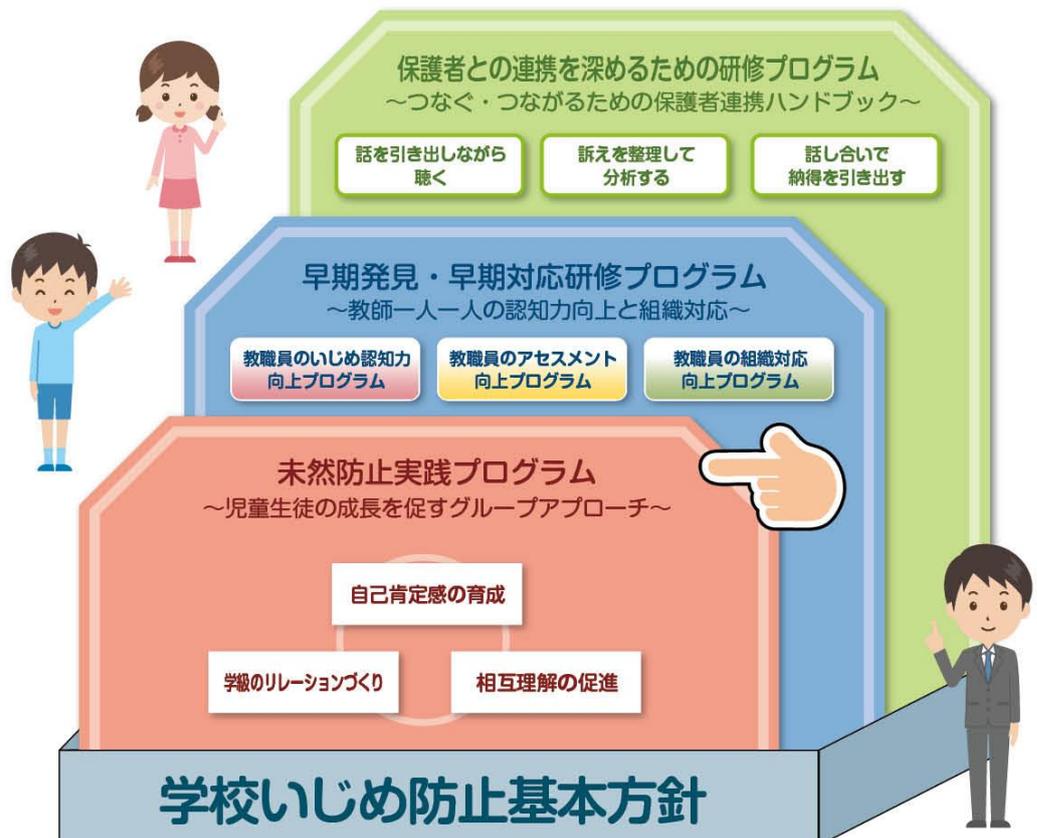
根本的ないじめ問題克服のためには、すべての児童生徒を対象としたいじめ未然防止の観点が必要です。その観点到立ち、本ハンドブックでは、グループアプローチを年3回、計画的・系統的に配置し、児童生徒が互いに認め合い、安心できる居心地のよい学校や学級を目指すためのモデルプランを紹介しています。

目指すのは、主体的・対話的な学級です。そのポイントは次の2点です。

- ①安心して生活できる居心地のよい学級
- ②互いのよさを認め合う関係の中で主体性・協働性が育まれる学級

児童生徒は、協働的な活動を通して他者と自分の考え方や感情の違いに気づいたり、仲間に受容されることで自信を持ったりできるようになり、良好な人間関係を形成する力を身につけていきます。そうした意味でグループアプローチは、児童生徒の個人と集団の成長を促す有効な手法なのです。本ハンドブックが、学校において積極的に活用され、「人間力に満ちあふれ山形の未来をひらく人づくり」の一助となることを心より祈念します。

いじめ防止対策支援プログラム



未然防止実践プログラム

児童生徒の成長を促すグループアプローチ

第1章 学級のリレーションづくり

仲間とふれ合う活動を通して、緊張や不安が解消した良好な人間関係を体験します。

4月

構成的グループエンカウンター

学年で実施

Webページ展開案1参照

第2章 児童生徒の相互理解の促進

課題を解決する協働的活動を通して、お互いのよさを認め合う関係を育みます。

9月頃

グループワークトレーニング

学級で実施

Webページ展開案2～4参照

第3章 児童生徒の自己肯定感の育成

小学生はお互いに認め合う関係をさらに深め、中学生・高校生は自己実現の意欲を高めて、自己肯定感を育みます。

1月頃

小学生

グループワークトレーニング

学級で実施

中学生・高校生

キャリア構成的グループエンカウンター

学級で実施

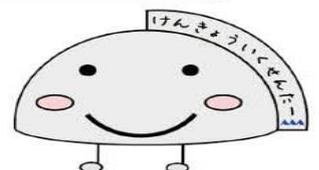
Webページ展開案5～7参照

第4章 グループアプローチを効果的に行うために

本ハンドブックで紹介する「未然防止実践プログラム」にかかわる詳しい展開案や関係資料は山形県教育センターWebページよりダウンロードしてご活用ください。

【山形県教育センターWebページ】

<https://www.yamagata-c.ed.jp/>



第1章 学級のリレーションづくり



仲間とふれ合う活動を通して、緊張や不安が解

1 プログラムの構成

このプログラムは、学年全体で実施することを想定しています。学校や
ることもできます。

3つのプログラム (**推奨プログラム(90分)** **選択プログラムA(70分)** **選択プログラムB(70分)**)
選択プログラムA(70分) は **推奨プログラム(90分)** の時間を短縮したプログラムです。
選択プログラムB(70分) は、活動を通して感じた本音を話すことが苦手な児

INDEX	活動名 時間	活動目的の説明 10分	A 足じゃんけん 15分	B パースデーサークル 10分	ふりかえり(前半) 5分
	推奨プログラム(90分)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	選択プログラムA(70分)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	選択プログラムB(70分)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

2 活動のねらい

各活動のねらいを理解したうえで実践することが、よりよい児童生徒の

活動のねらいを
知ることによっ
て実情にあった
工夫ができます。



活動目的の説明

この時間の目的を児童生徒に説明します。居心地のよい学級をつくるための活動であることを児童生徒が納得して活動をスタートします。

A 足じゃんけん

全身を使った活動を通して心身の緊張をほぐし、また活動上のルールに慣れます。



D 質問じゃんけん

仲間に関心を持って質問し合い、互いを肯定的に認め合う関係を築きます。



E 他己紹介

仲間を受け入れられている実感を確認し、安心感を抱きます。



活動上のルール

- 参加のルール** 【① 守秘義務】 この時間に話した内容はすべての活
【② 不参加の自由】 参加したくない活動の時は無理に参
から再び参加してもよい。
【③ 参加にあたって】 少しの勇気を持って自分について話
挨拶のルール 一緒に活動する相手に対して、活動をはじめる前には「よ
挨拶とお礼は、握手やハイタッチしながら言うのが望ましい

消した良好な人間関係を体験します。

児童生徒の実情に合わせて学級で実施したり、活動を選択・工夫したりす
)から、いずれか1つを選択して実施します。

児童生徒が多い場合に実施します。

C	D	E	F	G	
アウチ 5分	質問じゃんけん 5分	他己紹介 5分	わたしのチャレンジ 5分	共同絵画 20分	ふりかえり(後半) 10分
<input checked="" type="checkbox"/>					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

変容につながります。

<p>B</p> <p>バースデーサークル</p> <p>非言語コミュニケーションを体験し、仲間と1つの課題を成し遂げた連帯感を共有します。</p>	<p>C</p> <p>アウチ</p> <p>その後の活動が円滑に行えるよう、2人組になった相手との心理的距離を縮めます。</p> 
<p>F</p> <p>わたしのチャレンジ</p> <p>心を開いて話すことと相手を受け止めて話を真剣に聴くことを相互に行い、さらに安心感を高めます。</p>	<p>G</p> <p>共同絵画</p> <p>仲間の気持ちを察しながら作業を協力して行い、1つの課題を成し遂げ、仲間との連帯感を高めます。</p> 

動が終わって会場を出たら話題にしない。
 加しなくてもよい。見学や先生の手伝いなどをして、参加したくなった時点
 す。人の話をさえぎったり冷やかしたりせず真剣に聴く。
 ろしくお願いします!」、終わる時には「ありがとうございました!」と言う。
 が、児童生徒の実情や発達段階により難しい場合には無理はしない。

3 活動のすすめ方

Webページ展開案1参照

足じゃんけん

15分



周囲の仲間との会話が増え、参加態度が意欲的になります。

活動の概要

2人が向かい合い、足で「グー」「チョキ」「パー」を表し、じゃんけんをします。「1対1」の個人戦からスタートし、参加人数によりますが「2対2」「4対4」「8対8」等のチーム戦を行います。

足による「グー」「チョキ」「パー」

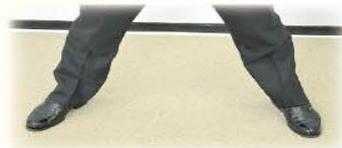
足で「グー」「チョキ」「パー」を元気よく、「じゃんけん、ぽん!」のかけ声と一緒に、前方にジャンプしながら出します。



グー



チョキ



パー

挨拶のルール

一緒に活動する仲間と「よろしくお願いします!」と挨拶を交わし、可能ならば握手やハイタッチのスキンシップをとります。

よろしく
お願いします!



握手



ハイタッチ

1対1の個人戦



パーの勝ち



引き分け

チーム戦 (2対2、4対4、8対8)

手をつなぐか、仲間の肘あたりを「失礼します!」と言ってからそつとつまむと、チームの一体感が増します。



肘のあたりをつまむ



チーム戦 (2対2)

B
バースデーサークル
 10分



達成感を味わって笑顔になり、学級の一員であることを自覚します。

活動の概要

言葉を使わずに、身ぶり手ぶりだけで誕生日順に並び円をつくります。

学級対抗で行い、並び終わったら1人ずつ誕生日を確認します。もし、間違っても責めることはせず、正しい順に並び直します。



担任の右側からスタートし、担任の左側が最後になるように並ぶ



ジェスチャーで伝え合う

C
アウチ
 5分



2人組になった相手と自然な笑顔で向き合うようになります。

活動の概要

バースデーサークルで隣り合わせになった人と2人組になります。2人が向かい合い、お互いに人差し指を近づけ、ふれ合った瞬間に「アウチ」と声をそろえて元気よく言います。

「アウチ」には「いつまでも友だち」という意味が込められています。



最初は30cmくらい離す



指がふれ合ったら「アウチ！」



質問じゃんけん

5分



うなずきが増え、2人の会話がはずむようになります。

活動の概要

2人組でじゃんけんをし、勝った人が負けた人に1つ質問します。これを2分間繰り返します。相手が嫌がる質問を避け、答えたくない質問には「パス」してよいことにします。



他己紹介

5分



お互いを紹介し合うことで、仲間に受け入れられたと感じ、表情が穏やかになります。

活動の概要

「質問じゃんけん」の2人組を2つ合わせて4人組をつくります。「質問じゃんけん」で聞いた情報をもとに、相手を紹介します。



わたしのチャレンジ

5分



自分の抱負をはっきり語り、仲間の話真剣に耳を傾けるようになります。

活動の概要

同じ4人組で、「わたしのチャレンジ」と題して1人30秒～1分間話します。



「質問じゃんけん」「他己紹介」「わたしのチャレンジ」

3つの活動の共通点

いずれも「自己開示」と「傾聴」を大事にした活動です。自己開示とは自分のことを率直に表現することです。話し手は自分を語り、聴き手は真剣に耳を傾けます。この体験を通して、児童生徒は自分が仲間に受容されていることを実感します。

共同絵画

20分



仲間と一緒に絵を描く作業を通じて充実感を味わい、作業後に仲間と笑顔で話し合いができるようになります。

活動の概要

同じ4人組のまま「楽しい学校」という題で、言葉を使わずに絵を描きます。

最初に描く順番を決め、1人目は「校門」、2人目は「校舎」、3人目は「校庭」、4人目は「時計」を描きます。2巡目からは、順番通りに自由に描きます。「人間」と「体育館」は、必ず誰かが描くようにします。

最後に、どんなことを描こうとしたのか、どんな学校にしたかったのか、どんなことを感じたのかを、4人で話し合います。



みんなとサッカーしたいから、グラウンドにサッカーボールを描いたのね!

第1章

先生のかかわり



リーダーになった先生

①雰囲気づくり

児童生徒がリラックスして参加できるように配慮します。活動のねらいを丁寧に伝え、児童生徒が納得して参加できるようにします。一方で、活動内容の説明はできるだけ簡潔明瞭を心がけ、動作の模範はわかりやすく示すようにします。

②率先した自己開示

先生自らが本音を話して模範を示します。児童生徒が先生の発言をモデルに、「そんな風に話せばいいんだ」「そこまで話していいんだ」と気づき、自己開示を促します。

リーダー以外の先生の見守り

①円滑な運営

児童生徒の活動を見守り、2人組や4人組をうまくつぐれない場合には援助するなど、状況に応じて支援し、円滑な活動を促します。

②不参加を望む児童生徒への対応

やらないときの参加の仕方を教えて、できそうな活動は一緒にやってみます。終了後は観察しての感想を聞きます。

③前向きになれない児童生徒への対応

参加していても前向きな姿勢が見られない児童生徒は、個別に話を聴き、自分の気持ちに気づき話すことができますようにします。

※参考文献(1)

第2章

児童生徒の相互理解の促進



課題を解決する協働的活動を通して、
お互いのよさを認め合う関係を育みます。

1 プログラムの構成とねらい

第1章の「学級のリレーションづくり」により良好な人間関係を築いたうえで、児童生徒が互いに認め合う関係を深めるために、活動は2つ以上実施します。

難易度	1回目	2回目 (やや難)	3回目 (難)
相互理解		深化	
小学生	人間 カラーコピー 45分 	わたしたちの お店やさん 45分 基本編 	
中学生	人間 カラーコピー 30分 	わたしたちの お店やさん 30分 基本編 	先生ばかりが住ん でいるマンション 30分
高校生	人間 カラーコピー 25分 	先生ばかりが住ん でいるマンション 25分 	わたしたちの お店やさん 25分 応用編

活動のねらい

- ①情報の適切な伝え方や聴き方を学びます。
- ②自分や仲間が活動の中で果たした役割をふりかえり、どのように行動するのがよいのかを考えます。
- ③課題を仲間とともに協力して成し遂げる達成感を共有します。

活動は、5～6人の班で行います。いろいろな仲間と交流することによって仲間の新たなよさを発見できるように班編制を工夫します。



2 活動のすすめ方

Webページ展開案2～4参照

人間
カラーコピー



活動中に班のルールが自然に生まれ、協働性が高まります。

活動の概要

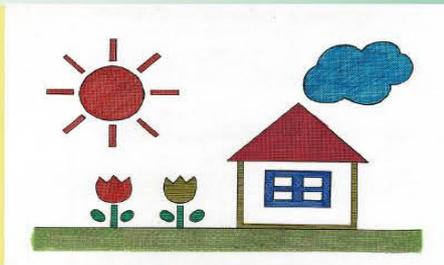
課題の絵を交替で見に行き、見た情報を班の仲間に伝えて再現します。作業時間は、発達段階に応じて10分～20分で設定します。

1回に1人ずつ、何も持たずに見に行きます。何度見に行ってもかまいませんが、同じ人が続けて見に行かないようにします。作業終了後、ふりかえりを行います。

課題の絵を選択することで難易度を変えることができます。



屋根の形は…



課題の絵 ※参考文献(2)



窓は青か水色だったと思うけど…

窓の形はどうだったっけ?

色より先に、形を見てきたらいいんじゃないかな?

〇〇さんが、先に形を見ようと言ってくれてよかったです!

ふりかえりシート〈基本〉

【人間カラーコピー】

実施 〇〇年△月△日

〇〇年△組**番 氏名〇〇〇〇

今日のグループの様子を思い出して書きましょう。

- 次の質問にあたる人はだれですか。思いあたる人の名前を全部書きましょう。自分があてはまるときは、自分の名前を書きます。あてはまる人がいないときは、書かなくてもかまいません。

	質問	名前
1	がんばって絵を見に行った人はだれですか。	佐藤さん、田中さん、私
2	がんばって絵を書いた人はだれですか。	阿部さん
3	いい考えを出した人はだれですか。	鈴木さん、加藤さん
4	みんなの意見をまとめようとした人はだれですか。	鈴木さん
5	友だちの考えに賛成したのはだれですか。(いい考えだね、そうしようなど)	佐藤さん、私

- 「人間カラーコピー」をして、よかったことや気づいたことを書きましょう。

- 〇 みんなで楽しくできました。
- 〇 途中、加藤さんが、先に形を見て、それを確かめてから色を見に行ったらと言ってくれたのがとてもよかったと思います。
- 〇 阿部さんが絵がとても上手で、がんばって書いてくれました。
- 〇 鈴木さんがいつの間にかまとめ役みたいになっていて助かった。

ふりかえりシート〈基本〉 ※参考文献(3)

わたしたちのお店やさん



対話的な集団活動を通して、課題を主体的に解決しようとする態度が身につきます。

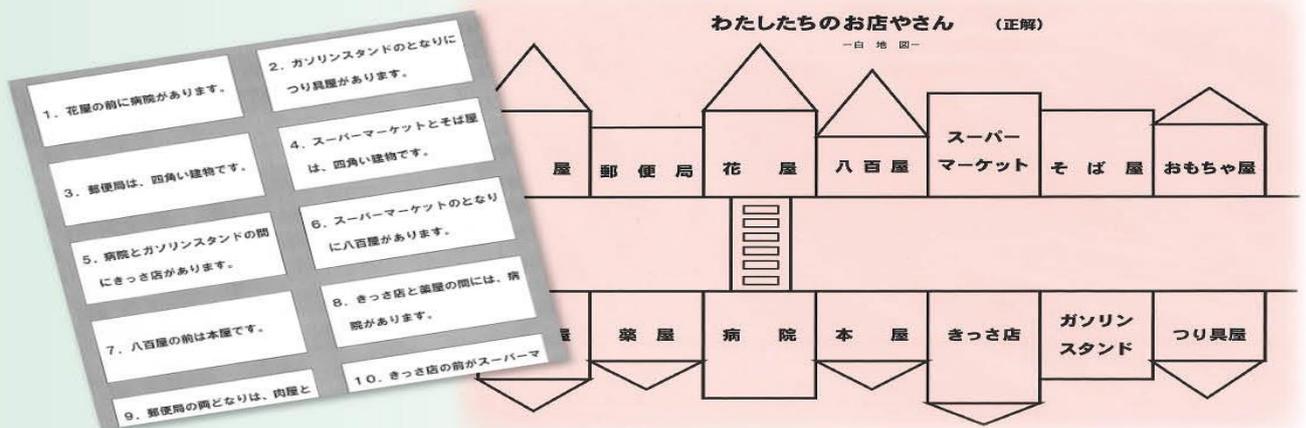
活動の概要

情報カードを班員に配ります。班員は自分に配付された数枚のカードの情報をお互いに伝え合い、協力して商店街の地図を完成させます。

基本編 は、20枚の情報カードを使います。

応用編 は、**基本編** の情報カードのうち、18番～20番のカードを外し、難易度を上げます。

作業時間は、発達段階に応じて10分～20分で設定し、作業終了後ふりかえりを行います。

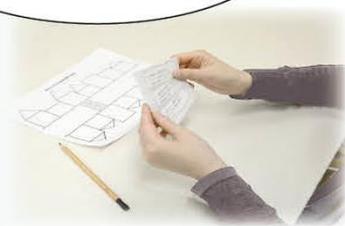


「わたしたちのお店やさん」情報カード
※参考文献(3)

「わたしたちのお店やさん」正解地図
※参考文献(3)



「花屋の前に病院がある」って書いてあるから、ここかなあ!



情報カードは周囲に見せない

先生ばかりが住んでいるマンション



Effect、活動の概要とも、「わたしたちのお店やさん」と同様の活動です。14枚の情報カードを使ってマンションの見取り図を完成させるので、難易度が上がります。



集団活動に能動的にかかわったかを、ふりかえりの中で気づくようにし、主体性・能動性を引き出します。

ふりかえりにおいて児童生徒に気づかせたい視点

①課題達成のためのかかわり

- ・活動全体をうまく進めるために意欲的にかかわっていたか。
- ・仲間の意見をまとめるために積極的にかかわっていたか。
- ・班の中での自分の役割を見つけて主体的にかかわっていたか。

②集団維持のための配慮

- ・仲間の意見が出やすいように配慮していたか。
- ・仲間が気持ちよく活動できるように配慮していたか。

ふりかえりシート〈発展〉

【先生ばかりが住んでいるマンション】

実施 〇〇年△月*日

〇〇年△組*番 氏名 〇〇〇〇

今日のグループの様子を思い出して書きましょう。

1 「先生ばかりが住んでいるマンション」をする中で、だれのどんな話や行動がグループの協力の助けになりましたか。次の欄にグループの人の名前を書きましょう。そして、話したことやしたこと、思い出して書きましょう。

だれ	話したことやしたこと
自分	たくさんメモをとった。
田中さん	いつの間にか司会をしていた。
佐藤さん	確実な場所を決めたらと言った。
鈴木さん	佐藤さんの考えに賛成した。
渡辺さん	決まったものに〇をつけてくれた。
が	が

2 「先生ばかりが住んでいるマンション」をうまくするためにどんな工夫をしたか、次にやるときにやれそうな工夫にはどんなことがあるか、書きましょう。

○ 最初に司会する人と書くひとを決めるといいと思います。

○ 同じ先生の情報を持っている人の話を聞く。

3 「先生ばかりが住んでいるマンション」をして、よかったこと気づいたことを書きましょう。

○ みんなで話し合うのが楽しかった。あたってうれしかった。

○ 班のメンバーがみんな、いっしょけんめいなんだとわかった。

ふりかえりシート〈発展〉 ※参考文献(3)

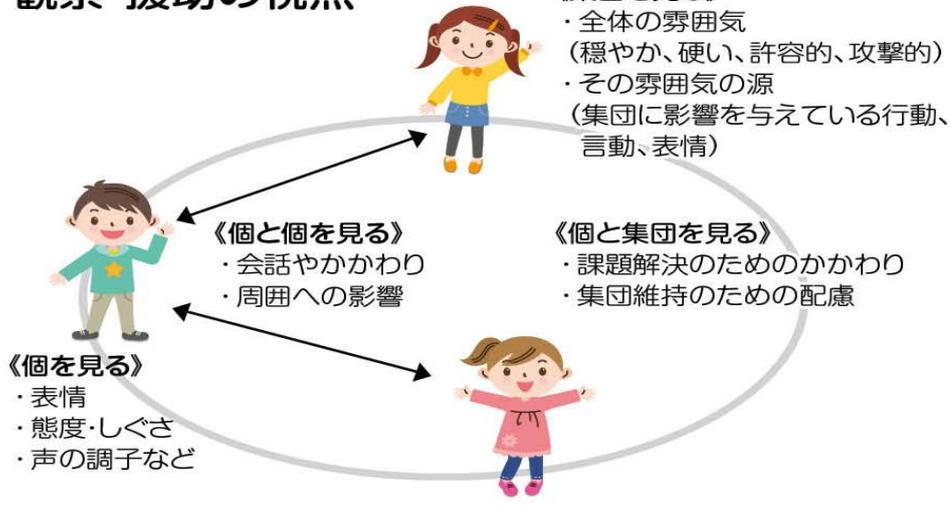
第2章

先生のかかわり



児童生徒の気づきと学び合いを引き出すための援助を行います。各班の問題点を指摘したり、勇気づけを行ったりしながら、仲間と協力して主体的に課題を解決するよう促します。児童生徒を観察する中で、小さな感情の変化や互いの結びつきに気づくと、援助の手立てが見えてきます。

観察・援助の視点



※参考文献(4)

第3章

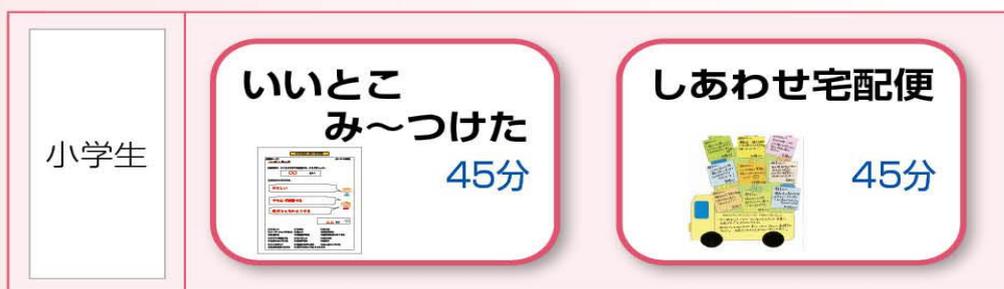
児童生徒の自己肯定感の育成



小学生はお互いに認め合う関係をさらに深め、中学生・高校生は自己実現の意欲を高めて、自己肯定感を育みます。

1 プログラムの構成とねらい

第2章の「児童生徒の相互理解の促進」により互いに認め合う関係が育まれたうえで、小学生は「いいところ みつけた」「しあわせ宅配便」のうち、どちらかの活動を選んで実施します。中学生・高校生は「KJ法による進路探索」を実施します。



活動のねらい

仲間の長所に気づき、また仲間が気づいた自分の長所を知ることによって相互理解を図り、自分に対する自信を深めます。



活動のねらい

興味関心がある職業を探る活動を通して自己理解を深めるとともに、仲間の気づきにふれることで自己の再発見を図り、進路選択において自分が大切にしていることに気づきます。

活動は、4~5人の班で行います。第2章同様、いろいろな仲間の考え方・感じ方にふれて自分を見つめ直すことができるように班編制を工夫します。



2 活動のすすめ方

Webページ展開案5~7参照

【小学生】

いいところ
み~つけた
45分



活動をふりかえる中で、自分について前向きな感想を書いたり、自信を持って発表したりできるようになります。

しあわせ宅配便
45分



活動の概要

仲間のいいところや頑張っているところなどを書いて渡します。もらったメッセージを読み、感想を記入し、ふりかえりを行います。

「いいところみ~つけた」課題シート
※参考文献(2)

「しあわせ宅配便」プレゼントシート
※参考文献(4)

第3章

「いいところみ~つけた」「しあわせ宅配便」

先生のかかわり



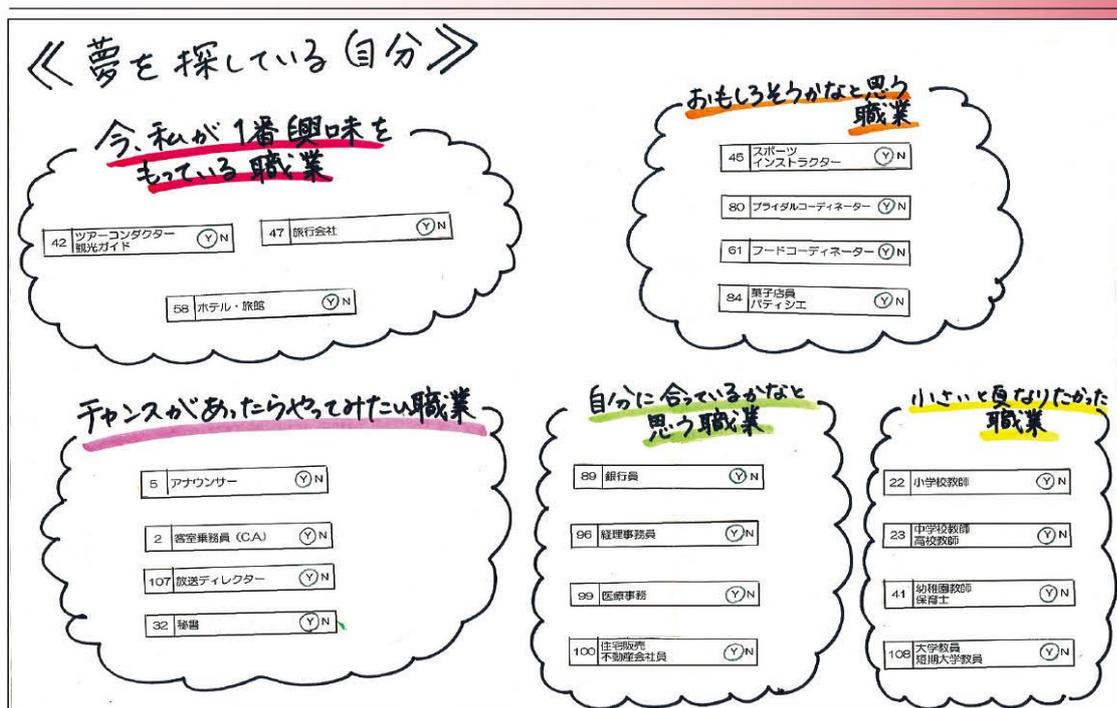
いいところを見つけられずに困っている児童に対して

友だちのいいところを見つけようと努力している気持ちを励まし、勇気づけを行います。教室内の掲示物を見回してみるよう話したり、学校行事での様子を思い出してみるよう促したりして、自分で気づくよう援助します。

適切な言葉を書けない児童に対して

本人はいいところを書いたつもりでも、もらった児童が傷つく言葉になっている場合があります。適していない表現があれば個別に呼び、自分がもらう人になったつもりで読んでもらい、気持ちを聞いたり、先生が感じていることを話したりして、児童自身の気づきを促します。

※参考文献(4)



ワークシート作成イメージ ※参考文献(5)

第3章

「KJ法による進路探索」

先生のかかわり



「Y」のカードが非常に少ない生徒に対して

「その職業のどんなところが好きですか」「その職業に就くためにはどうすればよいと思いますか」と声をかけて掘り下げて考えてみるよう促します。

「Y」のカードが非常に多い生徒に対して

「興味関心のある職業がたくさんある自分はどんな自分だと思いますか」と声をかけます。「Yのカードの中から特に興味関心の高い職業をさらに選んでみましょう」「Nのカードの職業に共通している点は何かを考えてみましょう」と提案します。

前向きな態度をとれない生徒に対して

「面倒ですか」「億劫に感じていますか」と声をかけ、「面倒くさいと感じる理由を話してみませんか」と感情を話すように促します。

タイトルが決められずに困っている生徒に対して

「グループ分けした時どんなことを考えましたか」「タイトルがつけられない自分はどんな自分だと思いますか」と声をかけます。

作業が早く終わった生徒に対して

「その職業に就くためにはどうすればよいと思いますか」「自分のどんなところがその職業に合っていると思いますか」と、さらに考えてみるよう提案します。

※参考文献(5)

第4章

グループアプローチを効果的に行うために



活動中に感じたことや気づいたことなどを言葉で表現して、共有する「ふりかえり」が不可欠です。

構成的グループエンカウンター (SGE) においても、グループワークトレーニング (GWT) においても、活動後の「ふりかえり」が重要な意味を持ちます。

第一に、活動で体験したことを言語化して初めて自分の中で明確に意識することができるからです。

第二に、分かち合いにより他者の感じ方や考え方にふれて、自分への理解を深めるとともに、自分の偏りにも気づいて自己変容が促されるという効果もあるからです。他者の存在は自分の存在を浮き彫りにし、場合によっては、今まで出会ったことのない新しいモデルとなることもあります。

第三に、受容的・共感的態度で聴いてもらうことで自分を受け止めてくれる仲間の存在を実感できるからです。このことによって、自分が仲間を受容される価値ある人間であるという自信を生み、自己肯定感を育むことができます。



コラム

集団体験の意義

構成的グループエンカウンターを提唱した國分康孝氏は、集団体験の意義について次のように述べています。

集団体験（グループプロセス）には一対一の面接では得られないよさがあります。列挙するとこうなります。

- ①模倣の機会が多い。思考・行動・感情が変容する。
- ②自分だけの悩みではないとわかり安心する。
- ③多様な仲間から多様なコメント（フィードバック）がもらえるから洞察の機会が多い。
- ④試行錯誤の機会が多い。
- ⑤集団の規範に従うことが行動の変容を促進する。
- ⑥集団への所属感が日常生活の支えになる。

※参考文献(6)



グループアプローチと並行して「アセスメント」を行い、効果を検証し、改善を図ります。

「アセスメント」とは見立てのことで、ここでは学級や個々の児童生徒の状況を把握することを意味します。観察法や面接法によって実態をつかむのはもちろん、客観的な実態把握の手段としてQ-U等（河村茂雄）やアセス（栗原慎二）などのアセスメントツールを計画的に併用しましょう。時期としては、各学期に1回ずつ、例えば6月・10月・2月の計3回実施することが望ましいと思われます。結果をチームで分析し、日常の生徒指導を改善したりグループアプローチのプログラムを見直したりする契機にすることが大切です。

詳しくは『いじめ防止対策のための早期発見・早期対応ハンドブック』第2章を参照してください。



グループアプローチと「担任力」



グループアプローチは、児童生徒が個人として、集団として成長することを促す取り組みですが、例えば、集団の動かし方、指示の出し方、ルールの徹底の仕方、集団の観察の仕方、児童生徒の個別支援のあり方など、実践を通して先生自身のスキルアップにもつながります。

グループアプローチは、先生が教えるのではなく、児童生徒自身が協働的な活動の過程で気づき、考えることに重点を置いています。そうした点から言えば、グループアプローチには、探究型の授業づくりに通じるヒントがたくさん隠されているのです。もちろん、児童生徒とのかかわり方においても多様な視点を知ることができ、生徒指導を行ううえでのヒントを得ることもできます。

本ハンドブックでは、実施しやすいグループアプローチを選びました。「発達支持的生徒指導」や「課題未然防止教育」としてグループアプローチを実践しながら、心理教育の視点、手法を身につけ、「担任力」を高めていきましょう。



主体的・対話的な学級づくりの先にあるもの

本県では、これまで21世紀を生き抜く力を育成するために探究型学習による授業改善を進めてきました。探究型学習では、児童生徒が対話や議論を通じて主体的・協働的に学びます。これは、「令和の日本型学校教育」の考え方と重なるところがあり、自分が感じたことを率直に話すことができる居心地のよい学級、異なった考えや意見を尊重し合うことのできる学級、そのような良好な学級状態の中でこそ建設的な対話が成り立ち、児童生徒は新たな気づきに出会い、仲間とともに学びを深めていきます。それゆえ、本ハンドブックが目指している学級の姿は、主体的・対話的で深い学びを実現するための土台となりうるものと言えます。

また、児童生徒が楽しい学校生活の中で、自分らしさを発揮できる場面を多く持つことができるならば、「学級の仲間と共に学びたい」という気持ちが高まっていくのではないかと考えられます。

本ハンドブックでは、いじめの未然防止の立場から学級づくりのグループアプローチを紹介してきました。グループアプローチを活用した安心して生活できる居心地のよい学級づくりや互いのよさを認め合う関係の中で主体性・協働性が育まれる学級づくりは、いじめの未然防止に限らず、学習指導や生徒指導でも効果をもたらし、よりよい学校づくりに役立つものと確信しています。

【制作協力】 会津大学 文化研究センター 教授 苅間澤勇人 氏

※参考文献

- (1) 國分康孝ほか編 2001
『エンカウタースキルアップ ホンネで語る「リーダーブック」』図書文化社
- (2) 坂野公信監修 日本学校グループワーク・トレーニング研究会編著 2015
『協力すれば何かが変わる《続・学校グループワーク・トレーニング》』図書文化社
- (3) 坂野公信監修 日本学校グループワーク・トレーニング研究会編著 2015
『改訂 学校グループワーク・トレーニング』図書文化社
- (4) 日本学校グループワーク・トレーニング研究会著 2016
『学校グループワーク・トレーニング3 友だちっていいな 自分でいいな』図書文化社
- (5) 國分康孝監修 篠塚信・片野智治編著 1999
『実践サイコエジュケーション 心を育てる進路学習の実際』図書文化社
- (6) 國分康孝著 1997『学級担任のための 育てるカウンセリング入門』図書文化社
- (7) 國分康孝・國分久子総編集 2004『構成的グループエンカウター事典』図書文化社
- (8) 片野智治編集代表 2001
『エンカウターで進路指導が変わる 生き抜くためのあり方生き方教育』図書文化社
- (9) 河村茂雄編著 2016『組織で支え合う!学級担任のいじめ対策 ヘルプサインと向き合う チェックポイントとQ-U活用法』図書文化社
- (10) 文部科学省 2022 『生徒指導提要』